

資料4

加熱式たばこ対策について



➤平成15年 健康増進法施行(平成14年法律第103号)

- 初めて受動喫煙対策が明確化された
- 国民の健康増進の観点から受動喫煙防止の取り組みを積極的に推進するため、多数の者が利用する施設の管理者をするものに対して、受動喫煙を防止する措置を取れる努力義務が課せられた。

→企業での自主的な取り組みが行われた。飲食店、鉄道、タクシーなどの施設屋内や内部における禁煙への対応が勧められて一定の成果を上げた。

▶平成30年 健康増進法の一部を改正する法律（改正法）（平成30年法律第78号）

- 多くの人が利用する施設において受動喫煙を受ける状況にあるため、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として国民の健康増進を一層図るために、受動喫煙対策の更なる強化
→多数の者が利用する施設等における喫煙の禁止、喫煙が可能な施設での掲示義務化などの措置が盛り込まれた。施設の類型に応じた原則禁煙等のルールとなる。

1, 第一種施設（学校等）の屋外喫煙所の設置について

- ・第一種施設は、原則敷地内禁煙。屋外に喫煙場所の設置は可能。

2, 既存特定飲酒提供施設の特例措置について<<附帯決議>>

- ・施行当時存在した小さな飲食店は食事しながら喫煙が可能【経過措置】

3, 指定たばこ（加熱式たばこ）の取り扱いについて<<附帯決議>>

- ・加熱式たばこに限って、食事などをしながら喫煙ができる「加熱式たばこ専用喫煙室」の設置が可能。【経過措置】

4, 喫煙目的施設の要件等について

- ・喫煙を主目的とするバー・スナック等については、施設内で喫煙が可能

指定たばこ（加熱式たばこ）について・・・

- 改正法成立頃から加熱式たばこが普及しはじめた。
- 紙たばことは発生する物質が異なる。
- 健康影響に関する科学的知見が十分ではなかった。

そのため・・・

「健康影響が明らかではない」ことを前提に、一定の“経過措置”が設けられた。

		紙巻たばこ		加熱式たばこ	
		能動喫煙	受動喫煙	能動喫煙	受動喫煙
WHOにおいて既公表の見解	成分	7,000種類以上の化学物質が含まれ、そのうち250種類以上が有害または発がん性あり。	副流煙には、ホルムアルデヒドやベンゼンなど数百種類の有害物質(発がん物質含む)が含まれる。	- 紙巻たばこには含まれない発がんの可能性のある物質と、遺伝子に悪影響を与える可能性のある物質あり。 - 有害物質を計測する標準的な測定方法がまだ確立されていないため、比較を行うことは難しい。	令和8年7月9日 “第7回受動喫煙対策専門委員会” 資料より抜粋
	健康影響	- 年間700万人以上の死亡の原因。 - 肺がん、心疾患、COPDなどの死亡の原因。	- 受動喫煙で年間160万人が死亡。受動喫煙に、安全なレベルはない。 - 受動喫煙は、心疾患、肺がん、COPDの死亡の原因。	- 加熱式たばこについては、独立した研究が不足しているため、長期的な健康影響は不明。 - 心臓や血管への影響は、紙巻たばこと同じくらいの危険性がある可能性がある。 - 加熱式たばこには、紙巻たばこと同程度のニコチンが含まれている。ニコチンは非常に依存性が高く、特に子供や青少年の健康に悪影響を及ぼすことが知られている。	(曝露について) - 室内空気汚染を増加させ、室内の潜在的発がん物質等の濃度は、WHOが推奨する限界値を超える濃度になるとの報告がある。 (健康影響について) - 加熱式たばこの受動喫煙にさらされると、周囲の人に喘息や喘息のような症状、のどの痛み、頭痛、胸の痛み、などが起きる可能性があるとする報告がある。
厚生労働科学研究等での知見	成分	5,000種類以上の有害物質が含まれている。発がん性のある物質も約70種類存在している。	副流煙に含まれる化学物質は、主流煙に含まれる成分とほぼ同じ。また、含まれる量は、主流煙より副流煙の方が多い。	- 発がん物質が含まれており、そのうちの一部は、肺がんのリスクが懸念される量である。 - ニコチン等の一部の有害物質は、健康影響が生じる量を超えている可能性あり。特に、ニコチンの量は、心機能への影響が強く懸念される。 - 主流煙の成分比較では、紙巻たばこと比較すると、発がん物質と非発がん物質の双方で、加熱式たばこの方が量が多い場合がある。なお、燃焼由来成分の場合は、加熱式たばこの方が概ね低い。	- 副流煙で、発がん物質を含む有害物質が検出されているとする報告がある。 有害物質が空気中に発生することが強く懸念されるとする報告がある。
	健康影響	虚血性心疾患、脳卒中、肺がんを含めた様々ながん、早産、歯周病、ニコチン依存症等との因果関係が明らか。	肺がん、虚血性心疾患、脳卒中、乳幼児突然死症候群との因果関係が明らか。	高血圧などの心血管系、ニコチン依存への影響が強く懸念される。	煙にさらされた人の生体試料からニコチンや発がん物質の代謝産物が検出されることが報告されており、受動喫煙による有害物質に曝露することが懸念されるとする報告がある。

紙巻たばこと加熱式たばこの健康影響に関する知見の比較					令和8年6月17日 “第6回受動喫煙対策専門委員会”資料より抜粋
【喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書より抜粋】					レベル1:科学的証拠は、因果関係を推定するのに十分である レベル2:科学的証拠は、因果関係を示唆しているが十分ではない レベル3:科学的証拠は、因果関係の有無を推定するのに十分ではない
紙巻たばこ	能動喫煙	レベル1 - COPD、呼吸機能低下 - 虚血性心疾患、脳卒中、腹部大動脈瘤、末梢性の動脈硬化症 肺、口腔、咽頭、喉頭、鼻腔・副鼻腔、食道、胃、肝臓、脾臓、膀胱、子宮頸部のがん - 肺がん患者の全死因死亡・がん死亡、がん患者の二次がん罹患 - 早産、低出生体重、胎児発育遅延 - 歯周病 - ニコチン依存症 - 臭気・鼻への刺激感 - 喫煙開始年齢が早いことと全死因死亡、がん死亡、循環器疾患死亡、がん罹患のリスク増加 - 結核の死亡 2型糖尿病の発症	レベル2 - 気管支喘息の発症・増悪 - 結核の発症・再発 - 特発性肺線維症 - 胸部大動脈瘤 - 大腸、乳、腎臓尿管・腎細胞のがん、急性骨髄性白血病、前立腺がん死亡、子宮体がんのリスク減少 - う蝕、インプラント失敗、歯の喪失 - 大腿骨近位部骨折、閉経後女性の骨密度低下 - 関節リウマチ - 認知症 - 日常生活動作 - がん患者全体の全死因死亡・がん死亡、がん患者の再発・治療効果低下、がん患者の治療関連毒性 - 女性の能動喫煙と生殖能力低下、子癲前症、妊娠高血圧症候群(PH)のリスク減少、子宮外妊娠、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、低出生体重・胎児発育遅延	レベル3 - 卵巣がん - 前立腺がんの罹患 - 結核の感染	
	受動喫煙	- 肺がん - 虚血性心疾患 - 脳卒中 - 臭気・鼻への刺激感 - 小児の受動喫煙と喘息の既往 - 乳幼児突然死症候群(SIDS)(妊婦の能動喫煙、小児の受動喫煙) - 小児の喘息の既往	- 鼻腔・副鼻腔がん、乳がん - 急性呼吸器症状(喘息患者・健康者) - 急性の呼吸機能低下(喘息患者) - 慢性呼吸器症状 - 呼吸機能低下 - 喘息の発症・コントロール悪化 - COPD	- 妊婦の受動喫煙と低出生体重・胎児発育遅延 - 小児の受動喫煙と喘息の重症化 - 親の喫煙と小児の喘息発症 - 受動喫煙と小児の呼吸機能低下 - 親の喫煙と学童期の咳・痰・喘鳴・息切れ - 小児の受動喫煙とう蝕	
【加熱式たばこに関するこれまでの知見の整理(厚生労働科学研究特別研究)より抜粋】					◎:関連性は強い、確からしさはやや高い ○:関連性はやや強い、確からしさはやや低い △:関連性は弱い、確からしさは低い ○:関連性は弱い、確からしさは低い
加熱式たばこ	能動喫煙	◎	○	△	現時点では判定できない
	受動喫煙	◎	○	△	現時点では判定できない

指定たばこ（加熱式たばこ）の今後について・・・

- 加熱式たばこの安全性が確立されていないから、“大丈夫”ではなく、安全性が確立されるまでは、可能な限り慎重に抑制的に対処を行う



①<<予防原則>>に基づいた対応を行う

- 今現在知り得ている加熱式たばこに関する情報を市民へ分かりやすく情報提供を行う



②加熱式たばこの正しい情報の周知を行う